



南アフリカ共和国からの便り



私の生活－仕事－編

2019年度青年海外協力隊
赤塩健太 小学校教育 No.3

ムプマランガ州エマラヘニ市

私の住んでいる場所は、ムプマランガ州エマラヘニ市です。首都プレトリアがある州の隣の州で、バスで1時間半、ひたすら東に進むと到着です。1回も曲がりません、一直線です。南アフリカにいる青年海外協力隊員としては首都に最も近い場所に配属されています。ムプマランガ州では、鉱山産業が盛んです。州の北東には南アフリカで最大の国立公園であるクルーガー国立公園があります。サファリが楽しめます。



MST Academy

私の配属先は、MST Academy です。正式名称は「Mathematics, Science and Technology Academy (MSTA)」で「算数科学技術アカデミー」と訳せます。ムプマランガ州の小学校と中学校の先生を対象に研修を行って、「州の教員の指導力向上」を目指しています。現在は州内の113の学校をアカデミーの指定校と定め、集中して研修を行っています。



MSTA 正面。大きくて立派な建物。

私への要請は下の3つです。

1. 指定校の巡回と教育改善
2. 教員向けワークショップの実施と手伝い
3. ICT 教育の充実



研修ルームや会議室、実験室、図書室を完備。さらに、なんと簡易的なテレビの放送室もあり。

現時点では、日本の小学校過程に当たる Grade1 から Grade6 の算数の教育改善を担当することになり、私用のデスクも貸していただきました。

上の要請も1年半前にいただいたものなので、状況をじっくり見極めながら、現地の人にとって必要な活動をしていきたいと思っています。



玄関からの眺め。見渡す限りの草原。矢印のあたりには、南アフリカを代表する動物、スプリングボックがたくさん！





ワークショップ準備

ワークショップ準備のために、実験器具の確認や研修室の整備などを事前に行います。物はそろっていますが、管理がずさんだったり、どこにあるか分からなかったりするので、準備も一苦労です。

ワークショップ in MSTA

私の印象では、熱心に取り組む先生が多いです。積極的に質問したり、活動に取り組んだりしています。しかし、私が思う課題もあります。写真は電気回路の実験ですが、全く仕組みを分かっていない先生もいます。事前のプレテストで100点満点中、40点以下の先生も何人かいました。熱心な方々なので、力になればと思いました。



サイエンス EXPO

州内の理科の自主研究発表会です。そういった教育行事にも参加します。10歳から15歳までの児童生徒の研究発表です。私は審査員でした。どの子ども真剣に取り組んできたことがわかります。私の英語能力不足で、良かった点やアドバイスを的確に伝えられなかったことが心残りです。



会議

2週間に1回は会議があります。算数、理科、技術のそれぞれの担当が、現状と今後について、プレゼンをします。また、私は話し合いについていくので精一杯です。子ども達の学力差が大きいことと、先生の中には学力が低い人がいることなどの課題があがっていました。



↓私のデスクです。電話対応には言語・内容面、とても苦戦します。毎回ビビっています。



↑MSTAの入り口は指紋認証ゲートです。セキュリティーの人も毎日3人はいます。

